

## 研 究 業 績

### 【論文】

1. 石川孝子、福井小紀子、岡本有子. 訪問看護師による終末期がん患者へのアドバンスケアプランニングと希望死亡場所での死亡の実現との関連. 日本看護科学会誌. 2017, 37, 123-131. DOI <https://doi.org/10.5630/jans.37.123>
2. 藤田淳子, 福井小紀子, 岡本有子. 過疎地域における医療・介護関係者の終末期ケアの実態と連携に関する調査. 日本公衆衛生雑誌. 2016;63(8):416-423.
3. Okamoto Y, Fukui S, Yoshiuchi K, Ishikawa T. Do symptoms among home palliative care patients with advanced cancer decide the place of death? Focusing on the presence or absence of symptoms during home care. *J Palliat Med.* 2016;19(5):488-95. doi: 10.1089/jpm.2015.0184. Epub 2016 Feb 5.
4. Igarashi A, Kurinobu T, Ko A, Okamoto Y, Matsuura S, Feng M, Yamamoto-Mitani N. Factors related to the provision of home-based end-of-life care among home-care nursing, home help, and care management agencies in Japan. *BMC Res Notes.* 2015; 12(8):434.
5. 三谷佳子, 永野みどり, 緒方泰子, 岡本有子, 五十嵐歩. 介護老人福祉施設における褥瘡対策に関する職員教育の実態とその関連要因. 厚生学の指標. 2015, 62(5), 20-26.
6. 諏訪 さゆり, 池崎 澄江, 辻村 真由子, 岡本 有子, 小長谷 百絵, 真田 弘美, 千葉 由美, 長畑 多代, 長谷川 真澄, 水野 敏子, 堀内 ふき. 日本老年看護学会会員における研究費の申請・獲得に関する実態調査 文部科学省科学研究費に焦点をあてて. 老年看護学. 2015, 19(2), 85-91.

### 【特集】

1. 岡本有子, 福井小紀子. 進行がん患者における意思決定支援とコミュニケーション 診断から看取りまで【第3回】看護師に求められる診断から看取りまで全体プロセスを見通したかかわり 高度看護実践のスキルから学ぶ実践例. がん看護. 2017;22(5):527-531.

### 【著書】

1. Yuko Okamoto and Noboru Motomura. Anxiety and Depression in Cardiovascular Surgery. In *Depression*, book edited by Dagmar Breznošćáková. Intech. 39-54. Published: March 29, 2017. <http://dx.doi.org/10.5772/67064>

2. 在宅看護論（改定第2版）. 石垣和子、上野まり（編集）. 株式会社南江堂、東京. 2017年1月5日. 担当：Ⅶ章6.経管栄養. 258-266. およびⅧ章9. 低栄養予防. 355-362.
3. エビデンスに基づく疾患別看護ケア関連図. 改訂版. 阿部俊子（監修）、山本則子（編集）、中央法規出版株式会社、東京. 2014年2月25日. 担当：2. 循環器 ⑥心不全、62-75. 4. エビデンスに基づく症状別看護ケア関連図. 改訂版. 阿部俊子（監修）、小坂橋喜久代、山本則子（編集）、中央法規出版株式会社、東京. 2013年2月20日. 担当：第2章2. ②胸痛、28-36.5)
4. 転倒・転落を防ぐ セーフティマネジメント. 小松泰喜、石川ふみよ（編集）、金原出版株式会社、東京. 2012年11月20日. 担当：3章7. グループワーク（3）：情報共有はどのように行っているか、173-175. および3章6. 事故の原因分析手法と再発防止策、168-172.